

SGEPSS 分科会 古地磁気・岩石磁気研究会 活動報告

◆ 2002年夏の学校

2002年8月3日～8月5日に、神戸市北区にある関西セミナーハウスにて開催した。学生43名、招待者2名を含む総勢65名が参加した。講演数は20件であった。今年は、多数の海洋磁気研究者の参加と、日本に長期滞在中の外国人研究者4名の参加によって、例年になく交流をもつことができた。2日目の午後には、“人類紀の地球環境”をテーマに下記の招待講演会を開いた。

加藤茂弘氏（兵庫県立人と自然の博物館）

「東アフリカの約2Ma以降の古地磁気層序：古人類進化と地球環境変動を結ぶ基準時間面」

成瀬敏郎氏（兵庫教育大）

「アジアの風成塵とモンスーン変動」

両氏とも自然地理学をベースにした研究者であるが、古地磁気・岩石磁気グループとの連携も可能なテーマでの講演がなされた。

1日目夜の分科会では、夏の学校のありかたについて議論されたが、結論は出ず、今後も検討を続けることが確認された。2003年はJAMSTECの担当で開かれることが決まった。

2002年夏の学校 幹事 兵頭政幸（神戸大学）



◆ 2003年夏の学校

平成15年(2003年)8月4日(月) - 7日(木)の日程で、横浜市の施設である「上郷・森の家」(〒247-0013 横浜市栄区上郷町1499-1 TEL 045-895-2211)

<http://www.city.yokohama.jp/me/green/ygf/morinoie.html>

http://www.city.yokohama.jp/me/green/ygf/mori_guide.html

において、夏の学校が開催されました。今年は、海洋科学技術センターの固体地球統合フロンティア(IFREE)夏の学校とジョイントで、じっくりとテーマを絞り込んだ講演発表と議論の時間を多めに取ったセッションと、若手の研究発表/議論の場を設け、例年より長い3泊4日のスケジュールで開催されました。また、最新情報として、ODPの速報セッションも設けました。

前半のIFREE夏の学校での講演内容は、コア変動と地球システム変動、ハワイプルーム、地震発生帯、白亜紀地球表層変動、サブダクションファクトリー：大陸・マンツルの進化、そして、スーパープルームをテーマに、グローバルな地球の変動史について、8講演をまとめて聞く機会となりました。後半の岩石磁気・古地磁気夏の学校では、18講演(そのうち8講演が若手による発表)でした。

初めて4日間という長期に渡ったプログラムとなりましたが、参加者は、連日40名-50名、半分が大学院生という若手の会となりました。初日と第3日目の夜間セッションでは、参加者全員による各人の研究紹介を行い、そのまま深夜まで議論や研究の情報交換などが続きました。

今回の目玉企画は、第3日目の藤井電磁気学会長によるCAWSESプログラム(Climate And Weather of the Sun-Earth System)の紹介として、太陽-地球磁場-気候の長期的変動のリンクについてのお話を聞く時間を設けたことです。SGEPSSの中でも、これまで、固体と超高層との交流がなかったことからCAWSESプログラム、特に太陽-地球磁場-気候の長期的変動についての双方の立場からの意見交換を行い、たいへん新しい交流が生じたことと考えております。

海洋科学技術センターが担当でしたが、開催時期と規模の関係上、外部に会場を設けたにも関わらず、広く地球科学の若手研究者の参加を得ることができました。第2日目と4日目にそれぞれ横須賀本部と横浜研究所の見学会も行い、調査船「よこすか」、「しんかい6500、2000」、TIMS、希ガス同位体質量分析計実験室、地球シミュレータ、海底ケーブルデータシステムなど、テクニシャンとの交流にも多くの参加がありました。

2001、2002年の夏の学校に比べると参加者が少なかった点は残念ですが、盛りだくさんの企画で贅沢に時間を使い、異分野間の交流が行え、若手だけでなく、参加者全員に夏の学校をそれぞれ楽しんでいただけたことと考えています。下記のホームページに会計報告と写真の紹介があります。どうぞお立ち寄り下さい。

<http://www.jamstec.go.jp/dsrweb/natsu/index.html>

なお、2004年度の夏の学校は、新しく立ち上がった高知大学コアセンターがお披露目も兼ねて、ご担当くださることとなりました。

2003年夏の学校 幹事 木戸ゆかり (JAMSTEC)